

地球システム科学は限りある地球を有効に利用して人類の持続的発展を達成させるために必要不可欠な学問分野である。従って関連科学技術の推進は各方面から強く要請されており、喫緊に解決せねばならない課題も多い。

当研究所は関連科学技術のうち、特に、資源・エネルギー開発、社会基盤整備、地下水、防災、環境保全などの分野に重点をおき、研究開発と研究成果の実際への有効利用を速やかに推進するために、継続事業（公益事業）である、1）当研究所独自の課題について研究開発を行い、その成果を公表して科学技術の発展に寄与する自主研究事業と、2）研究成果の普及および技術者・研究者の育成のために、研究会・講演会・セミナー等を開催する研究会等開催事業、及びその他事業である、3）産業界からの要請に応じて関連科学技術に関する課題の研究開発及び技術開発等を行う研究等受託事業を積極的に実施し、多くの有益な成果を挙げ、我が国の科学技術の発展に貢献してきた。

平成25年度には、地球システム工学の基幹分野である地質工学・探査工学・地盤工学・岩盤工学・防災工学などに関する基礎的及び応用的研究が活発に行なわれ、多くの有益な成果が得られた。これらの研究成果等を踏まえ、地球システム工学に関する研究成果の普及とその有効利用を促進するために、特別講演会を1回、研究会を3回主催すると共に、平成25年9月12日～13日にタイ国バンコック市でタイ王立工学会(Engineering Institute of Thailand)と連携して開催された「EIT-JSCE Joint International Symposium on International Human Resource Development for Disaster-Resilient Countries 2013」を後援した。また、当研究所のホームページ (<http://www.geosystem-research.com/>) を充実させて関連科学技術の普及に尽力した。

以下に平成25年度の活動状況を示す。

#### [1] 理事会、評議員会

##### 「平成25年度 第1回定例理事会」

平成25年6月20日（木）、16：00～17：30、 京都大学桂キャンパスCクラスターC1棟  
107会議室

出席理事：青木謙治（代表理事）、大津宏康、大西有三、松岡俊文、欠席理事：浦山 克

出席監事：石川浩次、吉田庄太

相談役：佐々宏一、 事務局：安川郁夫（主事）

##### 「平成25年度 定例評議員会」

平成25年6月26日（水）、10：30～12：00、 京都大学楽友会館 会議室（6）

出席評議員：大友 譲、木方建造、藤村健司、山田泰広、欠席評議員：西山 哲

出席理事：青木謙治（代表理事）、 出席監事：石川浩次、欠席監事：吉田庄太

相談役：佐々宏一、 事務局：安川郁夫（主事）

##### 「平成25年度 第2回定例理事会」

平成26年3月28日（金）、15：30～17：00、京都大学楽友会館 会議室（6）

出席理事：青木謙治（代表理事）、浦山 克、大津宏康、大西有三、松岡俊文

出席監事：石川浩次、吉田庄太

相談役：佐々宏一、事務局：安川郁夫（主事）

## [2] 部門研究会活動

現在、当財団法人内には次に示す 10 部門研究会が設置されており、それぞれの部門研究会が公益的な自主研究活動及び受託研究活動を活発に実施するとともに講演会および研究会を開催している。

- 1) 地球統計学研究会            2) 岩盤工学研究会            3) 写真計測研究会、
- 4) 京都地盤研究会            5) 岩盤水理研究会            6) ジオリスク研究会、
- 7) 東南アジア岩盤研究会    8) 地下可視化研究会            9) 地下水工学研究会、
- 10) 不連続性岩盤解析実用化研究会

## [3] 事業

### 1. 自主研究及び研究会等開催事業（継続事業）

#### 1) 自主研究事業

下記の題目の自主研究を実施し、多くの有益な研究成果が得られ、関連科学技術の発展に大きく寄与した。

- ① 震災復興計画のうち新エネルギー開発に関する研究
- ② 岩盤斜面の安定性評価におけるレーザースキャナデータの利用に関する研究
- ③ 地下可視化に関する研究
- ④ 不連続性岩盤へのグラウト注入モデルの構築およびその現場注入試験への適用に関する研究
- ⑤ 岩盤風化斜面での降雨に起因する地すべりに関する研究
- ⑥ 地下水面下のトンネル掘削での止水効果に関する研究
- ⑦ デジタル画像を用いたひび割れ幅計測システムに関する研究

#### 2) 研究会等開催事業

部門研究会が中心となって下記の講演会及び研究会を合計 4 回開催し、最近の関連科学技術の現状と発展に関し有意義な研究・討論を行った。

##### ① 京都地盤研究会 第 18 回特別講演会

日時：平成 25 年 5 月 8 日（水）、15：00～17：00、場所：京都大学楽友会館 2 階講堂

参加人数：94 名

##### ② 京都地盤研究会 第 52 回研究会

日時：平成 25 年 7 月 26 日（金）、13：30～17：10、場所：京都大学楽友会館 2 階講堂

参加人数：88 名

##### ③ 京都地盤研究会 第 53 回記念研究会

日時：平成 25 年 10 月 22 日（火）、13：30～17：10、場所：京都大学楽友会館 2 階講堂

参加人数：74 名

##### ④ 京都地盤研究会 第 54 回研究会

日時：平成 26 年 1 月 30 日（木）、13：30～17：10、場所：京都大学楽友会館 2 階講堂

参加人数：75 名

## 2. 調査・研究等受託事業（その他事業）

下記の14件の調査・研究を受託し、活発な公益的研究を実施し、多くの有益な成果が得られた。

- 1) 国道42号すさみ町岩盤崩落への3D-DDA手法適用に係わる研究
- 2) 野尻水路橋傾斜計設置に係る技術指導
- 3) 国道42号すさみ町岩盤崩落への3D-DDA手法適用に係わる研究（その2）
- 4) トンネル新技術の動向および既設インフラの更新・補強に関する指導
- 5) 高レベル廃棄物への適用可能なグラウト理論構築の研究
- 6) 各種岩盤でのグラウティングシステムの研究
- 7) 岩盤地下貯槽における空洞安定性・水封機能維持に関する研究指導
- 8) 道路機能保全計画策定データ解析の検証
- 9) 国道42号すさみ町岩盤斜面へのKeyblock解析適用に係わる研究
- 10) インフラ構造物の維持管理用画像処理技術の開発
- 11) 中心誘導法に関する地盤探査の開発
- 12) 高レベル廃棄物への適用可能なグラウト理論構築の研究（その2）
- 13) 道路トンネル走行型計測結果のデータ整理及び分析
- 14) 斜面計測に関する評価および技術指導

## 3. 研究会等の後援

下記の国際シンポジウムを後援した。

EIT-JSCE Joint International Symposium on International Human Resource Development  
for Disaster-Resilient Countries 2013

開催日：平成25年9月12日～13日

開催場所：タイ国、バンコク市インペリアルクインズパークホテル

以上のように本年度も自主研究及び講演会等開催事業を積極的に実施するとともに公益的な受託研究活動を実施し、地球システム工学の中心的な学問分野である地質工学・探査工学・地盤工学・岩盤工学・資源エネルギー工学に関連する科学技術の発展に寄与するとともに有益な多くの成果が得られた。

## [4] 財務状況

平成25年度の財務状況は別紙「平成25年度財務諸表」のとおりである。

以上